

勝山城跡

都留北部に位置するこの山には、勝山城跡、かつては、この谷を守った要塞、そこを通る主要な道などの遺跡があります。この城の起源については、様々な説明がありますが、最も広く受け入れられているのは、1594年に、豊臣秀吉の臣下が建て、秀吉のライバルである、徳川家康からの防御が目的であったという説です。完成後、城の所有者は何度か変わりました。最も長く所有していたのは、秋元氏で、この地域を1633年から1704年まで治めました。その後、幕府直轄領になりました。

現在、残っているのは、一連の土塁、2～3の石垣、堀であったと思われる溝がいくつか、外壁となる木製の柵で囲われていたと考えられる平坦地が3か所です。山の北尾根にも、囲いの遺跡があり、ここには昔、将軍家へのお茶が保管されていたと考えられています。この571メートルの山の峰から見ると、なぜ城を建てる場所としてここが選ばれたのか分かります。渓谷全体が一望できるだけでなく、山の急な斜面は3方を桂川に囲まれ、もう1方は険しい山地で、頑強な要塞となっているからです。